

第1回川口市青少年問題協議会 議事概要

- 日時：平成28年7月22日（金）13時～14時半
- 場所：議会棟3階 第4委員会室
※第3委員会室から当日変更
- 出席委員（敬称略）：栗原会長、若谷委員、芝崎委員、立花委員、須賀委員、平田委員、舩津委員、中牟田委員、姉崎委員、樋田委員、小柳委員、谷口委員、川島委員
- 事務局：福田子ども部長、日高青少年対策室長、立花室長補佐、内田主査、浅井主任
- 次第：議題
 - （1）川口市の青少年対策について
 - （2）提言書について
 - （3）川口市の中高生の意識と行動調査について
 - （4）川口市の青少年の現状について
 - （5）その他
- 傍聴人の数：0人
- 会議資料：平成28年度第1回川口市青少年問題協議会資料

1. 開会

2. 会長・子ども部長あいさつ

3. 委員紹介

4. 本会議について

〈 委員の半数以上の出席により、会議が成立する旨確認 〉

〈 会議録を作成、公開する旨確認 〉

〈 会議は公開であり、本日は傍聴者がいない旨確認 〉

5. 議事

〈 会長が議長となり、事務局から議事進行役を交代 〉

【議長】

本会議の会議録を作成するため、会議録署名人を姉崎委員、小柳委員に願います。

〈 委員承認 〉

(1) 川口市の青少年対策について

【議長】

議題（1）川口市の青少年対策について、事務局に説明を求める。

〈 事務局、資料に基づき説明 〉

【議長】

28年度に、青少年対策室が進める事業について、7ページの1から15までに挙げている。いずれも、持続可能型社会を作るために欠かすことのできない取り組みだが、様々な課題がある。今後、プラスとなる糸口とするため、改善策や事例等についてご意見をいただきたい。

【委員】

通学合宿について、地域の青少年育成協議会の理解が得られなかったとのことだが、そもそも、育成協議会は機能しているのか。

【青少年対策室長】

育成委員の方々は、しっかり活動していただいているが、通学合宿は平日に実施する事業であるため、協力できる方が少なく、指導者の不足につながっているものと考えている。

【委員】

私の認識では、青少年育成協議会は名前だけであり、ほとんど活動していない。地域によっては、実際に動ける団体に依頼した方がよいのではないかと思います。あて職で育成委員となっている人が、公民館の運営審議会にも入っているが、青少年育成協議会で何か活動しているかいうと、していないというのが私の認識である。

【青少年対策室長】

毎年、各育成協議会から活動報告を提出していただいております、実際に活動は行っているが、地域の実情により差があり、限られた人しか活動できないところもある。

【議長】

青少年育成協議会の育成委員を選出する規定はあるか。

【青少年対策室長】

青少年保護育成本部という母体があり、その下に、公民館地区青少年育成協議会があり、さらにその下に、各町会・自治会青少年育成委員会という組織がある。その育成委員の中から、公民館地区の育成協議会に派遣していただくという形になっている。

【議長】

各公民館地区の育成協議会の委員数は10名程度か。女性の委員はいるか。

【青少年対策室長】

各地区10名から15名程度で、女性もいる。

【委員】

そもそも、青少年育成協議会を各地区に設置しなさいというのが、文部科学省等からきているのか。

【青少年対策室長】

文部科学省等の指示ではなく、青少年対策室で定め、設置しているもの。

【委員】

難しいとは思いますが、実態を把握し、実務的な団体として機能するようにしてほしい。町会には、各方面から役職の依頼があり、誰かをあてがわなければならないという感じになっている。

【議長】

埼玉県との関係性で言えば、公民館は教育局なので、公民館運営審議会等の扱いは教育局、地域の青少年育成協議会については、県民生活部青少年課というつながりになり、地域で青少年をどう支えるかということになる。青少年育成協議会は、公民館運営審議会と違い、各市町村の実態に合わせて設置し、運営しているのだと思う。高齢化が心配だという話はあるか。

【青少年対策室長】

委員は高齢者の方が多い。

【委員】

私も、鳩ヶ谷地区青少年育成協議会に、青少年育成推進員として入っている。通学合宿については、以前、鳩ヶ谷でも実施したと思う。育成協議会の活動状況は、予算の関係等もあると思うが、各公民館地区によって差がある。毎年、夏休みのパトロールは実施しているが、若い方は少ないように感じる。

【委員】

南平公民館で通学合宿を実施しているところに、たまたま行ったことから、通学合宿をやっているんだと知った。そこでは、保護司の方が子ども達を入浴施設に連れて行ったり、PTAの方が登下校の送り迎えをやっており、必ずしも育成委員ではない方が携わっていた。

近頃は、いつ災害が起こるか分からない。入浴施設がない地区では、災害時の訓練という意味をもたせ、2泊3日程度なら、風呂に入れなくても頑張ろうというキャッチコピーで参加者を募集してはどうか。

育成協議会だけでなく、従来の方法から視点を変え、町会全体に呼びかけるなどすれば、協力者はいると思う。例えば、災害に関しては、町会の防災部、街を安全安心にという趣旨であれば、交通部の方々が関わってくれる。

自分の家から離れ、同じ学区の子ども達が朝から晩まで過ごす企画は、同学年ではあるが、違う学年同士ではないため、通学合宿はなくしたくない。視点を変え、事業を再構築すれば、お年寄りだけでなく、現役世代の協力も得られるのでは。例えば、指導する方の担当時間を1時間から3時間程度とするなど、負担を一極に集中させず、地域・学校・行政が連携して育てていく。

【議長】

事業の趣旨等について保護者の理解は得られているか。

【青少年対策室長】

好評を得ている。

【議長】

公民館の職員は、どう関わっているのか。

【青少年対策室長】

宿泊場所等、施設の利用に関して協力してもらっているが、子ども達の活動等運営面に関しては、青少年対策室がやっている。

【議長】

3泊4日、青少年対策室の職員が寝泊りし、子ども達に付きっきりで世話をしているのか。

【青少年対策室】

職員の他、ボランティアの生活指導者が一緒に宿泊しながら運営しており、そのボランティアの確保が難しくなっている。

【委員】

通学合宿の参加者の募集は、どのような方法で行っているのか。

【青少年対策室】

ホームページ、広報誌、学校へのチラシ等で周知し、募集している。申し込みについては、県の予約システムを利用している。

【委員】

公民館の事業として、前年度の運営審議会に諮るなどしているのか。

【青少年対策室】

次年度の実施場所となる公民館とは、事前に調整している。

【委員】

先ほど、視点を変えたらどうかとの意見が出されたが、会場となる公民館が決まった時点で運営審議会にかけ、実施方法等について議論してもらうのも一つの手かなと思う。青少年育成協議会も地域差があるようなので。

【青少年対策室長】

貴重なご意見をいただき、ありがたい。我々も視点を変えていきたい。現在でも、会場として決まっている公民館では、運営審議会には議題を出していただいているが、それほど細かい審議になっていないと考えられるので、早く周知をし、公民館の方でも検討できるような形にしていきたい。

【委員】

平日では、ボランティアを集めにくいのではないかと。平日に実施しなければならない理由はあるのか。

【青少年対策室長】

事業の趣旨が、通学しながら、一緒に寝泊りすることであるためである。

【議長】

もともと、通学合宿は、15、6年前に九州でスタートし、全国に広まった社会教育事業である。一時期ピークはあったものの、最近では、公民館の様々な事情により、実施が難しくなっている。そのような中、地域が支える川口市の形は素晴らしい。ただし、団体を特定してしまうと、協力体制ができないのではないかと。思う。

続いて、若手指導者、青少年相談員が増えてきたことを踏まえ、青年リーダーの活動のPRなど、これからこれをどう広めていくかについて、意見を伺いたい。昨年度の会議では、若谷委員から、バザーに出展するなど、学校単位のPTAとタッグを組むという具体的な案をいただいたが、他の方はいかがか。

【委員】

地域の中では、我々が知らない団体でも、活発に活動をしているところが多いので、そういった団体と連携しながらでないと、若手の育成はなかなか難しいのではないかと。

生活スタイルが多様化し、通学合宿もそうだが、事業自体が形骸化しているように思える。ボランティアに携わることは良いことだが、昔とは子ども達の技術も違うため、パフォーマンスとして出すのは難しいのではないかと。

今後の課題は、周知方法だと思う。行政主体で、これまで以上に発信していかないと、川口市が若手ボランティアを育成しているということが認知されない。LINEの活用など、様々な形の発信を検討すべき。

【委員】

学校を離れたところで、子ども達がどう活動できるか。鳩ヶ谷中学校では、中学生が小学校に行き、近隣の掃除を一緒にするなど、兄弟校の様な関係が作られている。そういう取り組みを授業の一環として行うことにより、一緒に活動することが普通と思ってもらうことも大事。塾や部活などで、なかなか自由な時間が取れない子が多く、学校の授業などで取り組めば、子ども達も動きやすいのではないかと。

災害発生時などは、地域の中で一番力になるのは、中学生の力である。中学校と小学校の繋がりや、中学生と地域との繋がりから、ボランティアというものを自然に考えられるようになるのではないかと。

【委員】

前川の公園では、プレイリーダーが昔遊びを行っており、若い子も何人かいたが、そういう団体と連携してはどうか。

【青少年対策室長】

当室の所管ではないが、今後、プレイリーダーとの連携も検討したい。

【委員】

柳崎町会のラジオ体操では、在家や芝東中学校の中学生が、お手本として前に並んで体操をしているが、こういうことも、活動のきっかけとなる。いくら中学生が忙しいといっても、朝の6時半から忙しい子はいないと思う。

【議長】

12ページに連携先の例として挙げられている「青少年ボランティア育成委員会」とは、どのような組織か。

【青少年対策室】

協働推進課所管の委員会で、中高生のボランティア育成にも取り組んでいる。昨年度から関わっているが、今後、さらに密接な関係を作れるようにしたい。

(2) 提言書について

(3) 川口市の中高生の意識と行動調査について

【議長】

議題(2) 提言書についてと、(3) 川口市の中高生の意識と行動調査については、関連性があるため、併せて事務局に説明を求める。

〈 事務局、資料に基づき説明 〉

【議長】

意識と行動調査に関しては、皆さんに議論していただくため、サンプル数は多くないが、高校生も対象としている。

提言については、「川口の青少年と地域の関わりについて」をタイトルとし、21ページに骨格案としてまとめられたように、「関わり」や「支援」という内容が入って来ている。これについては、今後、議論を深めていくが、議題(2)、(3)に関して、ご意見をいただきたい。

【委員】

調査結果については、県と市で差異はほとんどないという印象である。「地域が好きですか」という質問に対する「何とも思わない」という回答については、どの程度での意識で答えたのか分からないが、おそらく、普段、地域のことを考えていないのではないかと思われる。もう一つは、地域性もあるのではないかということ。移動人口というか、長く住んでいるか、いないかというところで、多少意識は違うのではないか。

2番目の質問項目では、「挨拶されればする」という意見が目立つ。逆に言えば、地域が働きかければ、皆するのではないかという期待を持った。働きかけをしていくことで、子ども達にも習慣化されるのではないか。問3については、悪いことを、そもそも最近の子はあまりしないのかもしれない。

個人的に驚いたのは、問4での9番、「電車やバスで席を譲る」という回答の多さ。なぜ、県の倍近くもいるのか。これも、環境に要因があるのではないか。県内を見ると、公共交通機関が少ない地域もあり、川口はそのような機会が多いのではないか。また、時期的な要因もあるのでは。体験学習や校外学習などで、席を譲ったなどもあるかもしれない。ただ、随分頑張っているという印象を持った。全体的に、中学生はどこもそれほど変わらない。周りの環境などでアンケート結果が変わっていくのかもしれない。

【委員】

アンケートの問2と問4は、なくてもよかったのではないかと思う。挨拶など、学校の先生がやっていたら、当然、生徒もやると思う。

地域のお祭りなどへの参加については、中高生が「時間が取れている」ということだと思う。そこは、各学校の校長先生に考えていただきたい。

先ほど、ラジオ体操での中学生のお手本の話があったが、たしかに、ある町会ではやっている。しかし、町会の子ども会の大人がリーダーになってやっているの、なかなか、子どもが前に出てやるということは難しい。私も、2カ所に出させてもらったが、子ども達にやらせてと言ってもダメ。大人が自分でやらないとダメ。掃除など、大人がやっていたら、黙っていても子どももやる。ボランティアには、無償も有償もあるから、お金を出して子どもを指導することもできる。

私ごとだが、市主催の「第1回ボランティア大学（平成8年）」を受講させていただきボランティアにはカラーでいえば種々あることを教えていただいた。東京都の洋上セミナーに参加した際、事前の宿泊研修で、ある生徒を中国に連れて行けないという話になった。班員がその生徒を連れて行かないなら、全員行かないと言ったら…。結局、問題となったその子が、現地で一番活躍した。だから、リーダーは誰になるか分からない。そういうことを考えてやって欲しい。

以前、「褒めてください」と言ったが、子ども達は、色々なところで活躍できる可能性を持っている。どうも、我々は、自分達の考え方で、子ども達を同じ方向に持っていきこうとしがちだ。そこを補ってくれるのがボランティアであると思う。夜間中学もそこで学ぶ外国人なども、色々見させてもらった。この会は、「育てる」ことを優先しているように感じる。私は、「育つ」という方向に持って行きたい。通学合宿についても、私の子どもの頃は、小中学生だけで、神社などで宿泊もやっていた。今なら、学校や警察に叱られるだろうが、そういう場で炊事もやっていたから、今でもご飯が炊ける。心配し過ぎではないかなと思う。

【議長】

他に何かご意見は。

【委員】

大人が変われば、子どもも変わるということは、一貫して言えると思う。

【委員】

スポーツ少年団の小中学生については、各団の指導者が挨拶を指導しており、徹底されている。ただ、逆に、父兄が全然挨拶をしない。大人同士でも、挨拶がなかなか出来ていない。大人が挨拶をしないから、中学生になると、子どももしなくなってしまう。大人が積極的に参加すれば変わると思う。

【委員】

提言の骨格の中で、第3章の提言1・2の内容が、学校やPTAということになると、当然、川口市の学校に通う生徒が対象となり、それは良いのだが、川口には地域性があり、駅周辺では、小学校から地域の学校に行っている子ども

もは非常に少ない。東京に近いので、都内の私立に通っている子どもも多い。提言の中で、私立に通う子どもにも働きかけるならば、「町会・自治会」の文言を追加して欲しい。課題もあるが、川口の町会・自治会は、非常にしっかりしている。その辺の視点を入れていただくともっと良いのではないかと感じる。

【委員】

アンケートの3番目の質問のところで、「よく叱られる」が34%とあるが、これは良いことだと思う。叱ってくれる大人がいるということは、褒めてくれる大人がいるということ。こういう地域は素晴らしいと感じる。外に高齢者がもっといれば良いと思うが、最近、高齢者は公園にもいない。年配者が出て来られるような公園を作りたいと言っても、なかなか難しい。叱る人は褒めてくれる。問題なのは無関心層。褒めない、叱らないでは、リーダーもなかなか育たないと思う。

【委員】

ここに携わっている方には、自分が、こういうところに、誰のために立っているのか、子ども達にも、「君がやっていることは、こういうことにつながっていくんだよ」ということを伝えて欲しい。この会議の委員の皆さんがお話される、子ども達に対する色々な話を各委員がそれぞれの場所に持ち帰り、「僕も頑張っているけど、君も頑張っているね」という形で、褒めるところをたくさん増やして、「あなたがいることがありがたい」ということを伝えていただきたい。

例えば、小中の連携ということで、元郷中学校、領家中学校、元郷小学校、領家小学校、元郷南小学校では、中学生が、小学校に凱旋するような形で行き、あいさつ運動を行っている。6年生の時には怒られてばかりいたけど、中1になって、学ランを着てあいさつ運動をするときに、「こんなこともできるようになったのね」と先生方は褒めてくれる。

先日、姉崎委員と、職業体験で土木建築の様子を少しでも知っていただきたいということで、中学校を訪問したが、本来であれば、色々な手間のかかる3日間のうち、1日でも良いので、子ども達に体験をさせたいということをお願いしていただけの方もいた。そう言っただけの方が当たり前ではなくて、私達には、他の方に伝えていくという役目もあると思う。

褒めるだけでなく、認めて、育て、それを見守っていくという流れをこの提言の中に盛り込んでいただきたい。

(4) 川口市の青少年の現状について

【議長】

議題(4) 川口市の青少年の現状について、川島委員に説明を求める。

〈 川島委員、資料に基づき説明 〉

〈 川島委員、資料に基づき説明 〉

【議長】

川口市で補導や非行の件数が減っている理由は何か。

【委員】

P T A、教育委員会、非行防止をはじめとした色々なボランティア団体など、様々な方に街頭補導などの活動を行っていただいていることが理由の一つである。最近では、家の中で、スマホなどを使って潜在化している部分もあるが、数字的に言えば、全県的に、刑法犯、補導は右肩下がりとなっており、川口警察署管内の子どもは増えているが、子どもの犯罪は減っている。良い傾向である。これは、警察だけではできないことであり、地域の皆様方のおかげだと思っている。

(5) その他

【議長】

議題(5) その他について、事務局に説明を求める。

〈 事務局、資料に基づき説明 〉

【議長】

何かご意見はあるか。

【委員】

市の28年度事業のうち、10月の戦没者追悼式について、以前から、子ども達の参加をお願いしているが、福祉部管轄事業のため、難しいという話だった。やはり、教育局と連携しないと、なかなか難しいと思う。戦没者追悼式というのは、青木町公園の英霊記念碑の前で行う式典。ご存じない方も多いが、戦争で亡くなった方々のお名前が刻まれている。教育局と連携し、子ども達に追悼式を知ってもらい、出席させてもらいたい。

【議長】

以上で予定していた議事が終了したことから、議長の責を解かせていただく。

6. 閉会

以上

平成28年11月17日

会議録署名人 川島 祐二

会議録署名人 小柳 美佐子

議題（１）

「平成２７・２８年度川口市青少年問題協議会の報告と提案」について

「平成２７・２８年度川口市青少年問題協議会の報告と提案」

～青年リーダーの育成と地域の関わりについて～

１ 現状と課題

- （１）背景と経緯
- （２）子どもと地域の関わり
- （３）青年リーダーの育成・確保の検討

２ 青年リーダー育成のための取り組み

- （１）取り組みの状況
- （２）地域における新たな活動の場

モデルケース 南平公民館子どもクリスマス会

３ 協議の経過と提案

[テーマ１] 青少年の中に「気づき」を生み、意識づくりに努めること

[テーマ２] 青少年にさらなる活動の場を与え、意欲と主体性を育てること

[テーマ３] 地域の大人が青少年を見守り、支え、次につなぐこと